

か。当時の村属中の校庭にはまだ兵番殿時代の名残りである土盛りした丘がたくさんあったが、その上から見た限り、女高師は常にしんと静まりかえっていた。

それから東高師・東京文理大（現在の東京教育大）へと進み、おそろしく長い学向成就(?)への道が続いた。途中3年ほどアメリカに住んでいたが、他のノ3年間、電車通りの向う側のきたない研究室ではお茶大のことなどにはわき目をふらず勉強していた。時折、うわさにのぼる「お茶大」という言葉も、大学にあるまじき奇妙な名前だと思って聞いていた。その間、この神聖にして優すべからざる学園内に入ったのは、日本地理学会大会の時と、何か事務的な用事で二三度来た時だけであった。いつも、真直ぐ正面を向いて歩いたことを覚えている。地理教室に来たこともあったが、何となく規格が大らかで、飯本先生の体格に合わせて教室を設計したのかと思った。

その後、日本女子大の英文科でアメリカ地理を教えることになり、女子大生とはああいうものかという先入観が着いた。それから立正大学（地理科生はほとんど男子）のさつぱつとした雰囲気でも大学のイメージを新たにしているうちに、お茶大へ非常勤講師で来ることになった。その当時、あちこちで女子大の印象はどうかと聞かれたが、いつもこちらは女子教育のベテランだと答えておいた。その後専任になったわけであるが、一番よろこんだのは家内であった。実は家内は「お茶のみ大学・くい物学科」の古い卒業生なのである。そのような関係で、横個人としても、半分くらいは自分の出た学校で教えているような気がしている。

研究室だより

貝山久子

月日の経過の早さは、年令を重ねるにつれて身にしみて感ぜられますが、それでも365日の間には、この研究室を含めての小さな社会にも、幾多の出来事があり、少しだけさに云えば正史の流れといったものと思わせられます。

地質学担当の吉田兼夫先生は昨夏玄島大学に御転出になりました。僅か2年半でしたが大変熱心に御指導下さり、お名残が惜しまれました。吉田先生の後任は兼任講師としてみえていた正井泰夫先生に決まり、7月に着任されましたが、それに伴い先生方の担任科目にも、研究室にもいくつかの変更が

ありました。担当科目の移動は次の通りです。経済地理学（渡辺 → 松井）日本地誌Ⅰ（松井 → 渡辺・式）地形学（渡海 → 式）地図学演習（渡海 → 式）英書講読（式 → 正井）集落地理学（式 → 松井）地理調査法式 → 正井 地図学（式 → 正井、地質学（吉田 → 渡海）外国地誌Ⅱ（松井 → 正井）自然地理学実験（松井・渡海 → 渡海）一般教育地学（吉田 → 式）。又オ3研究室を南北に分つ壁が作られ式先生の個室と正井先生の個室兼地図室となり電話も入りました。学生諸姉が足繁く出入することは従来通りです。兼任講師のお講義は従来隔年に行われていましたが、不便な点もあるので今年から別枝、幸田、保柳、橋井、有末の諸先生に毎年お願いする体制がととのいました。別枝先生は従来通り政治地理学と正史地理学を交互に講義（今年ば政治地理学）して下さいます。

渡辺先生は昨年9月に還暦を迎えられ、文化祭に諸先生や同窓生諸姉にお集まり頂いてお祝を申し上げ、ささやかな記念品を贈呈いたしました。記念品の一つの写真立てには、フムボルトとリッターの写真がおさまって、研究室にかざられています。先生のご多忙さは年々増大するようですが、昨年暮から今年4月上旬まで、ミシガン大学の *Center for Japanese Studies* の招きで渡米なされ、日本地誌の執筆のほか、講義やメキシコ視察をなさいました。この4月足らずは先生にとってまことに貴重な息抜き期間であったように思えます。松井先生が学生委員長長の任期を終えられましたら今度は式先生が学生委員兼任の祭務委員に就任され、新祭向題で学生の論議がかまびすしい折から、まことにごくろうなことです。7名の取員の他に今年度は専攻科の松橋さん、研究生の菊池さん（36年卒）中坪さん（茨城大学卒、昨年にひきつずき）、式先生のお手伝の土橋さん（36年卒）が研究室のメンバーに加わり、かなりにぎやかです。

今年の卒業生は学部14名、専攻科3名で、学部14名の中、進学（専攻科）1人、教職10人、会社3人でした。教職が多かったのも特色で、内3人は母校に錦を飾りました。これはご当人の説によれば、人物が優秀なためだそうです。会社3人の中フジテレビの小玉さんは、4月から早速日班日にはブラウン管に麗姿を現わしていますし、出版社に入った鶴尾さんは早速原稿の依頼にあらわれて、恩師もたちまちメッキリに追われる身となり“いとおかし”といったところですよ。専攻科の3人の卒業生の中、岩下、原の両嬢は教育大学の大学院へ進学、鈴木美智子さんはファイトを買われて市川の男子校へ就職いたしました。

講堂裏の渡り廊下（通称キャラメル廊下）と新館合併教室の間に、目下家

政学部の校舎を新築中で、もう9分通り完成していますが、春には雪のような純白の花が、又初夏には崩れたつ若葉が目をたのしませてくれたこぼしは校内のあちこちに移されて、大方枯れてしまいました。又この建設現場の火の不始末から、2月27日の夜半に小火があり、廊下のロッカーとオノ研究室の一部が焼けた他、製図室やオノ3研究室にも若干の被害がありました。火事の被害としては、むしろ小さなものでしたけれど、1ヶ月ほどは後片付けに忙殺されてしまいました。卒業生の方々から沢山のお見舞いのお言葉やお花を頂き、本当に嬉しゅうございました。

前号発行以後の卒業生のおめでたは次の通りです。5回生 深尾さん、8回生 井上さん、10回生 大野さん、河口さん、高井良さん、11回生、成井さん、船越さん、12回生 中村さん。

11回生の永田悦子さん(東大大学院在学中)は、昨夏から入院中でしたが、ご家族の手厚いご看護や先生方はじめ同級生、同窓生の方々の輸血やばけましの甲斐もなく、3月23日、大学の卒業式の夜にとうとう亡くなりました。ご両親のお嘆きをみるにつけ、子供に先立たれる以上の不幸はないと痛感いたしました。心からご冥福をお祈りいたします。

昨年のお茶の水地理6号発行に際しましてはいろいろ手遣いもあって経済的に逼迫いたしましたので、1〜6回の卒業生の方々に寄附をおねがいいたしましたところ、19,300円に達しました。おかげ様で支払いをすませたなお本年度に繰越すことができました。その都度受領書はさし上げましたが、下にご芳名を記して改めてお礼を申し上げます。よき先輩にめぐまれましたことを、在校生ともども喜び合ったこととございましたが、お茶の水地理の発行、配布につきましても、改めて検討の必要を感じております。

敬称略

遠藤照子、川又洋子、後藤美代子、三浦サト子、土岐みどり、一瀬昌子、内田慈子、大竹又子、岡田久美子、木崎昭子、木屋律子、小島俊子、佐藤由子、杉本良子、飯本節子、石田裕子、井出久美子、小野千種、堀川友弥子、上条淑子、大木良子、金子晴代、阪尾由美子、日原茂子、松岡恵美子、木曾久子、北村紀子、窪田正子、斎藤玲子、小池とみ子、倉田洋子、内田弘子。最後に皆様のご多幸とご発展をお祈りいたします。(1965.6.7)